



'68 DODGE "HEMI" DART "DRAGON-LADY" (SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

NHRAヒストリーの1ページを飾った1台。

同じ68年型HEMIダートでも、こちらはシャリー・シヤハンがドライブしたフラッグレーサーで、ドラッグ・オン・ドラッグコンレティという名した愛称が与えられている。彼女は65年からNHRAに参加し、67年ではコロネットRT、68年ではこのダート、69年ではAMC AMXをドライブし、それぞれのボディタイプにこのネーミングが大きく施されていた。そして69年シーズンでは、女性として初めてNHRAのナショナルイベントで勝利を飾ったのである。



'65 PLYMOUTH BELVEDERE "BLACK ARROW"(SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

スーパーストックとくれば、このボディ・スタイル。

こちらはスーパーストックが最も盛り上がり続いていた時代の1台。ビル・ジョンセンのグリス・ベルベアである。NHRAではこの68年シーズンからレギュレーションで100cc以上というホモロゲーションを課したため、前年までいくつかのモデルがボディ・スタイルでスーパーストックを争っていた。このシーズンからはボディスタイルをもとにして順位をクリアした。そして、ダッジおよびクライスラーは、ボディ剛性を確保し、より軽量化しやすいアルミボディの採用、サイドの窓ガラスの中央に支柱が存在することから、別に「ポスト」と呼ばれている。軽量化にはダンパー・スプリング・ショックと426HEMI-6000、アルミヘッドにマグナム製のクランク・メインシャフト、そして2基のヘリウム7000のキャブレターが特徴だった。



'64 DODGE 330 "COLOR ME GONE II" (HIGHWAY 61 1:18)

オレは先に行っちゃうよーだ。

64年のシーズンにロジャー・ランダムがドライブしたダッジ330-2A「ポストカラーミーゴーンII」。この年3月で登場した426HEMIエンジンはあくまでレース用であり、この4年連続ではそれが普通車の乗用モデルに搭載されることはなかった。そしてダッジのスーパーストッククラスレーサーに搭載された426HEMIには「ラムチャージャー426」という愛称が与えられていた。



JERE STAHN'S '67 PLYMOUTH BELVEDERE (HIGHWAY 61 1:18)

こちらのスーパーストックはハードトップ・ボディ。

こちらはジャ・スターンの67年型ベルベア・ハードトップ。ボディに描かれたスポンサーロゴはひとつひとつ全てリアルに再現されており、時代を感じさせてくれる。

JACK WERTS'S PLYMOUTH SUPERBIRD(SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

こちらもドラッグ・ストリップで名を馳せた1台。

下に見えるミスターSA20と名付けられたスーパーバードは、たった1台だけ作られたファクトリードラッグレーサーのうち1台。ちなみに、SA20とは当時のクライスラーの家庭用車(5万/5万マイル=50 thousands)を意味しており、ドライバーのジャック・ワーストがクライスラーの保証書に書いていたことにもなっている。



'71 DODGE CHARGER R/T 426HEMI (ERTL AUTHENTICS 1:18)

426HEMIファイナルイヤヤーにウルトラ・レアなので。

実際にあって、よりレアな存在が19年型チャージャーR/Tの426HEMI搭載モデル。生産台数は45台と記録されている。ブラムクレイジーのボディにホワイトラインスタンプ、ホワイトのバイナルトップで、カフス・サンムーフ付きという仕様も、MOPARファンには珍らしいところだろう。もし、このエンジンがカレブに似ているなら、なんと、かなり貴重な車種に仕上がっているはずだ。ちなみに、同じ19年型のチャージャー・スーパービーで426HEMI搭載車となると、生産台数は5に少ない20台。それもまた超・レアモデルといえる。シリーズでモデル化されており、テーブルの上には貴重で、さらに愛着も湧かせるであろう一両かもしれない。



'69 DODGE CHARGER R/T 426HEMI(ERTL 1:18)

この仕様は少々マニアックかも?

こちらはショー・ルーム・ストックの4年型HEMIチャージャー。中古のチャージャー600との違いはわかりやすいという言い方もあってビックリだが、こちらは燃えてカウリー・スタイルにレトリックボディというマニアックな仕様。この一見地味なルックスとマッスルハートのイメージが、MOPARのハイパフォーマンスから強い魅力とも思える。ちなみに、426HEMIを搭載した69年型チャージャーR/Tの実生産台数は232台。チャージャー600/426HEMIは52台。チャージャー・ディテールのHEMIカーは70台と記録されている。



DICK LANDY'S '67 DODGE CORONET R/T(SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

"ダンディ" をこの人の名前も忘れることなかれ。

MOPARマッスルを語る上、これは欠かせないので、60年代のスーパー・ストックをいざとすドラッグレース・マシンともな。というわけではまず紹介するのは、豪華なレイトマークだった"ダンディ"こと、ディック・ランドーの67年型ダッジ・コロネットR/T「スーパー・ストリップ」ドラッグレーサー。この時代のNHRAでは1年ごとにレギュレーションが厳格化されており、スーパー・ストックのクラス分けについて厳格な規定も存在する。たとえばこのマシンでは5500ccのエンジンになるが、これが、D2となるにつれてD7が厳しくなるというクラスが下に落ちていく。と厳格な考えで燃費はいいのだろうか。DS/Aの"A"はシートリッチを意味するケースもある。さて、軽やかなアルミボディに大きなフード・スクープを備えた"ダンディ"のマシンが、ドア・アウターに描かれたコロネットのイラストが、いかにも当時のドラッグレーサーらしいムードを漂わせている。赤いペイントされたプレート・カムにクロームのクレーガー・ウィングの60年製のものも。そしてもちろん、フード下に隠れるのはドラッグレース用にパワーアップされた426HEMI。デュアル・バルブ・キャブレターならこのセットが今も使われている。



DICK LANDY'S '68 DODGE "HEMI" DART (SUPER CAR COLLECTIBLES 1:18)

ドラッグレースにおける"勝利"の方程式。

こちらは69年シーズンに"ダンディ"ディック・ランドーがドライブしたHEMIダート。中古モデルにおいてはダートにHEMIを搭載することはなく、あくまでドラッグレースの大会に登場したスーパー・ストックだ。小さくて軽いがクルマに大きくてストロング・エンジンという組み合わせは、ドラッグレースでよりタイムを叩き出すための基本でもある。

